

いま、中学生が訴えたいこと

青少年の非行の芽をつみ、心豊かでたくましい青少年を育てるためには、何よりも健全な家庭環境が大切です。

6月25日に文化センターで「東浦町非行防止と青少年健全育成町民大会」が開催され、青少年対策の重点目標や事業計画の発表が行われました。また、「いま、中学生が訴えたいこと」をテーマにした中学生の意見発表もありました。発表された中学生の意見を紹介します。

●問い合わせ 生涯学習課(文化センター内) ☎83-9567



「いじめ」

東浦中学校 3年
とみやぶ 富数 ゆうか 侑加さん

皆さんは、いじめについて考えたことはありますか。きつと多くの人が、あまり深く考えたことはないと思いますが、これを機に少し考えてみてほしいと思います。

まず、なぜいじめはなくなるしないのでしょうか。「いじめはいいのか、悪いのか。」という質問をするとき、きつと多くの人が、「悪い」「どうせ悪くしょう。」など、なぜいじめは悪いのか。という質問をしてみると、ほとんどの人がわからなかったり、なんとなく悪いことだと思っていたりする。ことに気がつくでしょう。私はこれこそがいじめがなくなるなら原因だと考えます。いじめが

本当にだめだと思つたら、止めに入るはずでしょう。それを自分が標的にされたくないなら、様々な理由をつけて傍観するから「傍観者」という立場ができるのです。一人一人が、「なぜいじめは悪いのか。」を考え、自分なりに結論を出すことが、いじめを減らす第一歩だと思います。

私が通っていた小学校では、ひどいいじめがありました。学年の全員が一人の生徒を標的にし、毎日罵声を浴びせ、園のように扱い、一人だけ教室から追出すなど、それが当たり前のようになっていました。私はその当時、「傍観者」でした。罪の意識はなく、「何もしてないから別にいいや。」と思っていました。しかし、今思つと、別の意味でもできていないのです。「何もできていない」のです。中学生になつてもいじめは続き、彼は別の学校へ引っ越しました。彼の辛さを当時の私たちは全くわかっていなかったのです。

今までも言われたことがあつたはずの言葉なのに、「いじめられてる」と意識したとたん、苦しくなりました。その時初めて私は気がつきました。あの頃いじめられていた彼は、これに六年以上も苦しめられていたのだと。傍観していた自分に腹が立ちました。

彼はいじめられているとき、笑っていました。それを見て、「あいつ、笑ってるぜ。嬉しいのかな。」と言っている人たちがいました。あのときはわかっていませんでしたが、彼は嬉しいのではなく、きつと最大限の防御だったのです。この苦しい時間が早く終わるなら、笑っていた方がいいと思つていたのかもかもしれません。それほどにいじめというものは心に大きな傷を作ります。加害者がいじめを「楽しい」と思っているなら、すぐにやめてほしいです。被害者を「哀れだ」と思っているなら、いじめている自分が一番哀れだといふことに、加害者自身が一刻も早く気がついてほしいです。きつと加害者も誰かをいじめていないと、自分の精神を保てなくなっているのだと思います。私と同じ中学生がいじめによつて自殺してしまったというニュースを耳にします。そして

学校側からも、「何度もアンケートをしています、そのような事実はありません。」という発言を聞きます。私はいつも思っています。「そりゃそつだ。」と。自分の行動が誰かを死に追いやるといふことは殺人と同じです。そんなことをアンケートに書けるとは到底思えません。いじめにより命が失われた場合、帰らぬ人となつた被害者の家族や友人は、「悲しい」「辛い」なんて言葉では表せないほど、深く苦しむと思います。加害者や傍観者の方も、罪の意識から逃れられず、一生十字架を背負つて生きていくことになると思います。

学校でいじめについて友達と話合いました。加害者が悪い、傍観者が悪い、とみんなは言っていました。私はどっちが悪いとかではないと思います。犯人捜しをしたところで、被害者の心の傷が癒えるわけではありません。それよりも、どうしたらいじめがなくなるのかを考え、いじめがなくならないことを願っています。私は関わった人たちが悲しむことになる「いじめ」が許せません。いじめの根絶は難しくても、昔の私のように、いじめに苦しむ人が一人でも多く幸せになれることを願っています。



「もっと政治に 目を向けて」

北部中学校 3年
安藤 太一さん

「フオーン」、被爆者たちが強く願う平和の叫びの声です。僕がこの手で鳴らした広島市の平和の鐘。皆さんも、鳴らしたことがあるのでしょうか。この声があるのでしょうか。この声がある世界の中の人たちの心に響いたら、そんなうれしいことはありません。平和について深刻に考えることが増えたと多くの人が感じることができているのではないのでしょうか。

ところが僕たち中学生は実際のところ、部活動や友達のことや高校・大学受験のことだけにとらわれがちです。僕たち若者がもっと政治にも目を向けて積極的に政治参加ができれば、日本の未来は明るく、ずっと平和でいられると思います。では、最近の政治動向の中で興味をひく点を二つ挙げたいと思います。

第一に、伊勢志摩サミット後に行われた広島でのオバマ大統領の演説です。あの日、オバマ大統領の広島での演説中に、僕は部活を終え、帰宅しました。大音量のテレビ中継から、オバマ大統領の声が届いてきます。夕食の支度をしながら、母が聞いていました。僕もカバンを置き、急いでテレビの前へ。あの瞬間は歴史的にとっても大きな事だったと思います。任期終了間近というタイミングで広島を訪問するオバマ大統領に、僕は少し期待していました。小学生の頃、親にねだって買ってもらった本『オバマYES WE CAN!』は今も僕の本棚に並んでいます。この本からオバマ大統領のことを知り、僕はその後の政権の動向に関心をもっていました。今度は何をやるのだろっとな……。そして今回のオバマ大統領の行動には、心打たれました。資料館見学後の十七分間のスピーチや被爆者の方と抱き合う姿を見て、「核なき平和な世界への一歩を踏み出したんだなと、僕は感動しました。

しかし、被爆者たちの高齢化でこの伝承が途切れる不安があります。そこでエネルギーシユな若者たちが、今回のスピーチを過去を見つめ直す機会としてしっかりと受け止め、後世に伝えていく必要があると思います。第二に、改憲をめぐるこの賛否両論です。若者たちもこれらの意見に耳を傾けて、政治にもっと目を向けてみるべきだと思います。憲法をもっと身近に感じてほしいです。戦争放棄してから七十年、ずっと日本国憲法に守られて私たちは平和でした。世界に誇れる安全な国でした。しかし、世界情勢が大きく変化し、今の憲法では国民を守れない時代になったのでしようか。被爆者たちの平和への強い願いが込められた憲法を、どうしたらよいのでしょうか。目先の国際社会の貢献だけにとらわれるのではなく、平和であり続けるためには、どうするべきなのでしょう。情熱あふれる若者たちが、自分たちの明るい将来の鍵となる憲法を改憲するのかがどうかを今、真剣に考えるべきだと思っています。そうすれば、どのようなことを制度として取り入れたらよいのか、考えた制度を取り入れるためにどんな努力をするべきなのか、若者らしい観点からの切り口で、何か発信できるかもしれません。政治は毎日動いています。この夏の参議院議員選挙から、二十歳以上であった選挙権年齢が十八歳から引き下げられます。これは、今まで政治に距離を感じていた若者たちが、政治を身近に感じられるよいチャンスであると思います。これを機会に日頃から政治の話題を口にする等、家庭や社会全体で工夫することが必要です。既に世界の九割の国で十八歳から選挙権があることを考えたら、日本の若者の力は、まだまだ今からが見せどころです。高校や大学では、主権者教育を行っています。主権者になることの意味を知り、模擬投票もしているところです。混乱した日本を若い力だけでは変えられないかもしれないが、彼らが動き出せば社会が勇気づけられると思います。数年後、有権者になる僕も、もっと新聞を読み、街頭演説を聞き、選挙後の議員の動きを見守る等して、政治に参加できる準備をしたいと思います。自分たちの明るい未来のために。平和が続いていくために。

しかし、被爆者たちの高齢化でこの伝承が途切れる不安があります。そこでエネルギーシユな若者たちが、今回のスピーチを過去を見つめ直す機会としてしっかりと受け止め、後世に伝えていく必要があると思います。第二に、改憲をめぐるこの賛否両論です。若者たちもこれらの意見に耳を傾けて、政治にもっと目を向けてみるべきだと思います。憲法をもっと身近に感じてほしいです。戦争放棄してから七十年、ずっと日本国憲法に守られて私たちは平和でした。世界に誇れる安全な国でした。しかし、世界情勢が大きく変化し、今の憲法では国民を守れない時代になったのでしようか。被爆者たちの平和への強い願いが込められた憲法を、どうしたらよいのでしょうか。目先の国際社会の貢献だけにとらわれるのではなく、平和であり続けるためには、どうするべきなのでしょう。情熱あふれる若者たちが、自分たちの明るい将来の鍵となる憲法を改憲するのかがどうかを今、真剣に考えるべきだと思っています。そうすれば、どのようなことを制度として取り入れたらよいのか、考えた制度を取り入れるためにどんな努力をするべきなのか、若者らしい観点からの切り口で、何か発信できるかもしれません。政治は毎日動いています。この夏の参議院議員選挙から、二十歳以上であった選挙権年齢が十八歳から引き下げられます。これは、今まで政治に距離を感じていた若者たちが、政治を身近に感じられるよいチャンスであると思います。これを機会に日頃から政治の話題を口にする等、家庭や社会全体で工夫することが必要です。既に世界の九割の国で十八歳から選挙権があることを考えたら、日本の若者の力は、まだまだ今からが見せどころです。高校や大学では、主権者教育を行っています。主権者になることの意味を知り、模擬投票もしているところです。混乱した日本を若い力だけでは変えられないかもしれないが、彼らが動き出せば社会が勇気づけられると思います。数年後、有権者になる僕も、もっと新聞を読み、街頭演説を聞き、選挙後の議員の動きを見守る等して、政治に参加できる準備をしたいと思います。自分たちの明るい未来のために。平和が続いていくために。

しかし、被爆者たちの高齢化でこの伝承が途切れる不安があります。そこでエネルギーシユな若者たちが、今回のスピーチを過去を見つめ直す機会としてしっかりと受け止め、後世に伝えていく必要があると思います。第二に、改憲をめぐるこの賛否両論です。若者たちもこれらの意見に耳を傾けて、政治にもっと目を向けてみるべきだと思います。憲法をもっと身近に感じてほしいです。戦争放棄してから七十年、ずっと日本国憲法に守られて私たちは平和でした。世界に誇れる安全な国でした。しかし、世界情勢が大きく変化し、今の憲法では国民を守れない時代になったのでしようか。被爆者たちの平和への強い願いが込められた憲法を、どうしたらよいのでしょうか。目先の国際社会の貢献だけにとらわれるのではなく、平和であり続けるためには、どうするべきなのでしょう。情熱あふれる若者たちが、自分たちの明るい将来の鍵となる憲法を改憲するのかがどうかを今、真剣に考えるべきだと思っています。そうすれば、どのようなことを制度として取り入れたらよいのか、考えた制度を取り入れるためにどんな努力をするべきなのか、若者らしい観点からの切り口で、何か発信できるかもしれません。政治は毎日動いています。この夏の参議院議員選挙から、二十歳以上であった選挙権年齢が十八歳から引き下げられます。これは、今まで政治に距離を感じていた若者たちが、政治を身近に感じられるよいチャンスであると思います。これを機会に日頃から政治の話題を口にする等、家庭や社会全体で工夫することが必要です。既に世界の九割の国で十八歳から選挙権があることを考えたら、日本の若者の力は、まだまだ今からが見せどころです。高校や大学では、主権者教育を行っています。主権者になることの意味を知り、模擬投票もしているところです。混乱した日本を若い力だけでは変えられないかもしれないが、彼らが動き出せば社会が勇気づけられると思います。数年後、有権者になる僕も、もっと新聞を読み、街頭演説を聞き、選挙後の議員の動きを見守る等して、政治に参加できる準備をしたいと思います。自分たちの明るい未来のために。平和が続いていくために。

しかし、被爆者たちの高齢化でこの伝承が途切れる不安があります。そこでエネルギーシユな若者たちが、今回のスピーチを過去を見つめ直す機会としてしっかりと受け止め、後世に伝えていく必要があると思います。第二に、改憲をめぐるこの賛否両論です。若者たちもこれらの意見に耳を傾けて、政治にもっと目を向けてみるべきだと思います。憲法をもっと身近に感じてほしいです。戦争放棄してから七十年、ずっと日本国憲法に守られて私たちは平和でした。世界に誇れる安全な国でした。しかし、世界情勢が大きく変化し、今の憲法では国民を守れない時代になったのでしようか。被爆者たちの平和への強い願いが込められた憲法を、どうしたらよいのでしょうか。目先の国際社会の貢献だけにとらわれるのではなく、平和であり続けるためには、どうするべきなのでしょう。情熱あふれる若者たちが、自分たちの明るい将来の鍵となる憲法を改憲するのかがどうかを今、真剣に考えるべきだと思っています。そうすれば、どのようなことを制度として取り入れたらよいのか、考えた制度を取り入れるためにどんな努力をするべきなのか、若者らしい観点からの切り口で、何か発信できるかもしれません。政治は毎日動いています。この夏の参議院議員選挙から、二十歳以上であった選挙権年齢が十八歳から引き下げられます。これは、今まで政治に距離を感じていた若者たちが、政治を身近に感じられるよいチャンスであると思います。これを機会に日頃から政治の話題を口にする等、家庭や社会全体で工夫することが必要です。既に世界の九割の国で十八歳から選挙権があることを考えたら、日本の若者の力は、まだまだ今からが見せどころです。高校や大学では、主権者教育を行っています。主権者になることの意味を知り、模擬投票もしているところです。混乱した日本を若い力だけでは変えられないかもしれないが、彼らが動き出せば社会が勇気づけられると思います。数年後、有権者になる僕も、もっと新聞を読み、街頭演説を聞き、選挙後の議員の動きを見守る等して、政治に参加できる準備をしたいと思います。自分たちの明るい未来のために。平和が続いていくために。

平成28年度

社会を 明るくする運動 優秀作品

優秀作品に選ばれたポスターと習字が
会場に展示され、表彰式が行われました。

(敬称略)

学校名	ポスター		習字	
	5年	6年	5年	6年
森岡小	-	-	寺田 有歩 くらだ ゆほ	久野 美咲 くの みさき
緒川小	-	-	内藤 有寿 ないとう あず	服部 那南 はっとり なな
卯ノ里小	-	増田 まり鞠 ますだ まり	森 美真菜 もり みま	都筑 南歩 つづき みな
片葩小	-	向井 優天 むかい ゆたか	石谷 唯 いしやに ゆい	石谷 彩 いしやに あや
石浜西小	-	森 亮太 もり りょうた	安藤 由紀 あんどう ゆき	-
生路小	-	-	北嶋 理人 きたじま まさと	岡 和佳穂 おか わかほ
藤江小	阿知波 杏 あちば あん	富田 さくら とみた さくら	両宮 和佳奈 あめみや わかな	加藤 智仁 かとう ともひと



「公共の場」

西部中学校 3年
鈴木 康揮さん

みなさんは公共の場について考えたことがありますか。公共の場というと、公共交通機関を思い浮かべる人が多いと思いますが。ただそれだけでしょうか。例えば、みなさんが毎日何気なく歩いている道路。僕もこれも公共の場だと思います。僕はボーイスカウトに所属していて、その活動の中で道路のゴミ拾いをするという活動がありました。その活動の中で、数多くのゴミを拾いましたが、特に多かったのがタバコの吸いが

らです。タバコは、子どもは吸えない、つまりこのゴミを捨てたのは、大人ということになります。今では、喫煙所も増え吸いながら捨てる場所もあるのに「めんどうくさい」から道端に捨てる。これが、少年・少女にあたる影響はどれほどでしょうか。

タバコに次いで多かったのが空き缶です。特にコーヒー飲料の空き缶が多かったことを鮮明に覚えています。コーヒーは子どもより大人が飲むことが多いので、これも大人が捨てた確率が高いです。今では、様々な場所にゴミ箱が設置してあるので、みんなで協力してきれいにすれば、ポイ捨ても減り、地球がきれいになっていくのではないかと思います。みんなで地球を守る、現代の社会では必要だと思います。道路は誰もが通ることのできる場なので、ゴミを捨てる人が減ることを願います。

を表し、「丁寧に」そして「きれいに」使うべきだと思います。トイレは「きれいに使われていない」、「だから汚れるのです。一人一人が意識的にきれいに使えば、そんなには汚れないはずです。トイレを丁寧に使うことを大切にしてほしいです。劇場や映画館・博物館も公共

の場です。劇場、特に映画館では、大声を出したり、前の座席に足をかけたりする人がいます。静かに見たい人、楽しみに見る人が多いと思うので、その場の空気を損なうことは、してはいけないと思います。ルールを守って鑑賞する。これができれば楽しい鑑賞になり、マナーを守る人も増え、一石二鳥になります。最もイメージしやすい公共の場は、やはり公共交通機関であるバス・電車です。僕は電車が好きなもので、よく電車に乗ります。特に僕は、電車に乗るマナーの悪さがとても気になります。電車に乗っているとよく見かけるのが、携帯電話で通話している人です。これはバスでも同じことが言えます。電車やバスの中では、電源を切る、もしくはマナーモードに設定しなくてはならないはずです。それな

のに通話をしている人、これは立派なマナー違反だと思います。他にあるのが、一人で二人分の席を使っている人です。電車は席数が限られているので、譲り合って座らなければなりません。それなのに寝たふりをする人、荷物をどかさない人は、いったい何を考えているのでしょうか。

僕は、席は譲るようにはしていません。例えば、高齢の方や妊婦さん、子どもを連れたいお母さん、障がいをもっている人など、席を必要としている人はたくさんいます。それでも関係なく「優先席」に座ってスマートフォンやゲームをしている若い人を見ると、同じ世代として少し残念に思います。「ゆとり世代」がこんなものだとは思われたくありません。マナーをしっかり守り、少し考えた行動をしてほしいです。みなさんは、「公共の場」についてどんなふうに考えましたか。僕は積極的に行動し、他人を思いやる気持ちをもつことが必要だと思います。いつでも感謝の心を忘れずに、素直な心の人が増えることを願います。

